

第10章 自己点検評価

10-1 学長室

達成目標（1）

学内諸活動の自己点検評価を毎年実施し、改善へと結びつく自己点検評価体制を構築する。

目 標

教育研究年報の在り方を検討し、自己点検評価活動と連動させる。

2013年度目標：自己点検評価報告書として集約する。

現状説明

大学評価室において、過去5ヵ年、自己点検評価を毎年実施し、改善へと結びつく自己点検評価体制を構築することを目標に準備を進めてきた。その一環として、2013年度の自己点検報告書を教育研究年報として編集を行い、翌年の年度内（3月）に完成させる自己点検体制が確立し、報告書としてまとめることが定着させることが可能となった。

点検・評価**<行動計画内容の達成度> S**

ここ数年間、教育研究年報を年内までに完成させることができ、当初の目標を十分達成することができた。

<成果と認められる事項>

教育研究年報の年内完成を実現させたことは、単年度の自己点検評価体制を構築するために重要なことであり、改善へ結びつく自己点検評価を実施する見通しがついた。

<改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

単年度での自己点検評価活動を今後数年は同様に継続していく。

<改善方策>

特になし。

達成目標（2）

学部等より提出された自己点検評価結果と改善策を「大学評価委員会」が点検して、改革成果に関する評価と改善策を付して学長に報告する。その結果を踏まえ、学長は、毎年3月に学部等の長に対し、個別に「学部マネジメントおよび教育改革」に関する指示・課題を与える。（毎年度）

目 標

自己点検評価委員会を立ち上げ、課題抽出を行うとともに、翌年度の方針に活かす。
2013年度目標：2012年度自己点検評価報告書の課題抽出と翌年度の方針策定。

現状説明

2011年度から新たな試みとして単年度PDCAでの自己点検評価活動の運用を行っており、今年で3年目になる。単年度PDCAに対応した自己点検報告書の作成についての説明会も実施し、また相互点検評価体制の確立を行い、課題抽出作業と翌年度の方針策定を可能にした。

今年度は第Ⅰ期中期目標の最終年度であり、かつ新たな第Ⅱ期中期目標のスタートを翌年度に控えているため、相互点検評価作業と課題抽出作業を翌年度初めに実施するよう評価体制を大きく変更した。また、自己点検評価活動の負担軽減を促進し形骸化を防ぐため、作成方法、提出時期等の見直しを実施し、単年度PDCAサイクルと評価体制の実質化を図った。

翌年度初めに実施される自己点検評価の結果は、大学評価委員会で点検を行い、大学として取り組むべき課題・問題の抽出結果が答申として学長に報告される。あわせて翌年度提出する予定の大学基準協会への改善報告書の参考資料としてまとめる予定である。

点検・評価**<行動計画内容の達成度> S**

相互点検評価活動による単年度PDCAの運用が可能となり、自己点検評価報告書から抽出された課題等を学長に答申することができるような体制を継続して実施することができた。また、第Ⅱ期中期目標のスタートに備え、かつ自己点検評価活動の負担軽減を促進し形骸化を防ぐため、評価体制を大きく変更し、作成方法、提出時期等の見直しを実施し、単年度PDCAサイクルと評価体制の実質化を図った。このことにより、第Ⅱ期中期目標をスタートさせる準備を整えることができた。

<成果と認められる事項>

各学部等においてPDCAの運用が定着しており、自己点検評価報告書作り等の評価活動が、以前よりもスムーズに実施されるようになっている。また、新たな第Ⅱ期中期目標に対する評価体制も確立することができた。

<改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方策>**

第Ⅱ期中期目標に対応可能な自己点検評価体制を推進し、PDCAの実質化を図って行く。

<改善方法>

特になし。